



初期民主主義・労働者運動史と公共圏に関する研究

[キーワード: 近代ドイツ, 民主主義運動, 労働者運動, 対抗的公共圏]

准教授 今井晋哉

<研究の概要>

1830年代にパリに流入したドイツ人手工業職人たちが、ドイツを追われあるいは逃れてきた自由主義・共和主義的な知識人たちと出会うことで創始された社会変革運動の成立過程と発展史、またそうした運動の影響を受けつつやはり手工業職人層と知識層とによってドイツ領内につくられていった労働者教育協会の運動史、とくに1848/49年革命期にハンブルクの政治的変革を求める運動のなかで教育協会が市民層の諸結社とどのような協力関係を構築しつつあり、またインターローカルな運動の形成にどのように参加していったのか、このような運動史上の諸局面を対象とし、主に運動の方法、連帯の射程と「対抗的公共圏」の形成というような観点を重視しつつ再検討を試みている。

これらの運動において目指されたことは、要約すると政治的民主主義の実現、社会経済的諸関係の変革を通じた貧困の解決と階層間差別の撤廃、社会的自助の試みとしての協同組合の創設と協同的自己啓蒙であった。研究対象とする時代のこれらの運動史は、上記いずれの課題についても十分な成果を上げたとは言いがたい、社会主義的労働者運動史の源流と位置づけられてきたことから、近年ではあまり注目されなくなっていた。だが今日、新自由主義的市場経済の世界化が世界各地で格差の極大化・貧困の深刻化をもたらし、さらに民主主義の質それ自体が問われるなか、改めて対抗的公共圏の構築・発展を展望するうえで、草創期の社会変革運動について、とくに運動を進めるうえでの対外宣伝・他地域の運動組織との情報交流・組織内の討論および共同学習過程の質という点から再審することも、一定の意義をもつのではないかと考えている。

<主要研究業績>

【論文】

今井晋哉・藤田幸一郎(1995年)「ドイツにおける労働者階級形成論—ユルゲン・コッカの近著を手がかりに」『社会経済史学』第60巻6号、61-85頁

今井晋哉(1999年)「ドイツ初期労働者運動における『一般教育』(1)—ハンブルク『労働者教育協会』の結成目的と初期の活動内容について」『帯広畜産大学学術研究報告 人文社会科学論集』第10巻第2号、35-78頁

今井晋哉(2010年)「労働者教育, 社会的自助, 公共圏への参加—ハンブルクの初期労働者運動の経験から」加藤哲郎・今井晋哉・神山伸弘(編)『差異のデモクラシー』日本経済評論社、151-178頁

今井晋哉(2016年)「亡命者と遍歴職人がみた復古体制下ドイツの状況と変革への第一歩—パリの『ドイツ人民協会』の運動(1832-34年)」『徳島大学総合科学部 人間社会文化研究』第24巻、93-112頁

専門分野: ドイツ近代史

E-mail: shi-imai@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7139

HP: <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shinkokusai/members/m1-2.html>

詳細情報: <https://web.db.tokushima-u.ac.jp/Assistance/60553/mypage/>